

「区立幼稚園見直しの基本的方向について」に対する意見(要旨)と対応

番号	意 見	意見等に対する考え方及び対応
1	子どもとの時間を大切にしたいと2年保育をあえて希望する保護者がいる事を知った上で、私立よりも1年遅れて区立に入園させる迷いや不安がある親にとって、現行の「うさちゃんクラブ」(げっこうはら幼稚園実施の子育て支援事業)は絶対必要です。	区立幼稚園において未就園児のための事業を行っていますが、今後とも子育て支援事業の充実に努めていきます。
2	認定こども園になった場合、経済的な理由で区立の施設を選ぶ人にとって負担の少ない保育料として欲しい。	短時間(幼稚園の教育の時間)利用については、現行の保育料を基本としながら、給食提供にかかる費用も見ていくこととなります。長時間(保育園と同等の保育時間)利用については保育園との均衡を図る必要があります。具体的な保育料については、ご意見等を踏まえながら検討していきます。
3	現行のままのげっこうはら幼稚園の入園募集はいつまでか。	げっこうはら幼稚園は平成26年4月に認定こども園に移行する計画ですので、現行の幼稚園としての入園募集は平成25年度入園募集までとなります。
4	抽選にもれた場合が心配。その場合を考えて定員を増やすことも是非考えていただきたい。	施設の広さ、教室数などから考えますと、現状では定員を増やすことは難しいと考えています。
5	幼稚園の教育を子どもに受けさせながら保護者の就労を支援してもらえる認定こども園制度には賛成です。	保護者の様々なニーズに応えられるよう、今後とも幼児教育の振興と子育て支援施策の充実に努めていきます。
6	早く区立幼稚園で3歳児保育を実現して欲しかった。月光原住区在住でげっこうはら幼稚園が認定こども園になったときは子どもが小学校に入学してしまうので、今は区立幼稚園入園は見合わせたい。認定こども園に移行する前の保護者の受け皿が用意されていないのが残念です。	区立幼稚園では、これまでの経緯から3歳児保育は実施していません。認定こども園移行にあたっては3歳児以下の保育についても、実施も含め検討していきます。げっこうはら幼稚園が認定こども園に移行するのは、平成26年度を予定していますがそれまでは現行と同様の運営を行います。
7	からすみ幼稚園での質問者の内容はどれも大切なことばかりでしたので是非全て答えていただきたいと思いました。夏休み中で出席できない人が多いので書面での回答をお願いしたい。	この資料をホームページに掲載することにより、回答とさせていただきます。
8	小さな子どもを連れて2つの異なる幼稚園に通わせるのはとても大変です。行事・時間が重なり誰かに助けを求めない限り不可能です。このため平成25年3月末に廃園するのではなく、あと5年延期をお願いします。烏森地区のからすみ幼稚園として存続を要望します。	平成25年3月の廃園を目途としているのは、保育所待機児への対応を速やかに行いたいことと、平成25年4月からのみどりがおか幼稚園の認定こども園移行に人員を活用し運営体制の充実に努めるためです。
9	保育園転用となっているが具体的な予定、時期は決まっているか。現在の0,1,2歳児の待機児解消のため保育園転用と言っていますが、3年後以降現在の0,1,2歳児は大きくなりその時点で本当に待機児童がいるか不明と思われるがどうか。	保育所待機児は今後も増えるとの見通しです。この点を踏まえ、平成25年3月末を目途に廃園し、平成25年度に施設改修等を行い、平成26年度には保育園として開園していきたいと考えています。

番号	意見	意見等に対する考え方及び対応
10	<p>在園児保護者として、本当に突然の出来事なので、ある程度保護者が納得できる期間(5年)の延長を希望します。</p>	<p>区立幼稚園の見直しについては、10年来、議会とも論議しながら教育委員会として検討してきた課題です。平成21年度に改定した目黒区基本計画には、「幼稚園の統廃合等による適正配置や認定こども園への移行を進める」と施策を掲げており、今回の見直しはこの基本計画に沿って進めているものです。平成25年3月末の廃園を目標としているのは、保育所待機児への対応を速やかに行いたいことと、平成25年4月からのみどりがおか幼稚園の認定こども園移行に人員を活用し運営体制の充実を図るためです。</p>
11	<p>事前の具体的な意見収集などないまま、決定事項としていきなり説明があったようで、その経緯に不信感が湧く。特に廃園予定の2園については、地域住民の意見やニーズなど、きちんと把握していたのか疑問だと思う。東山地区は、公務員宿舎が多い特性上、幼稚園へのニーズは必ず固定的にある。(転勤時期が不明確或いは居住が短期などの事情により、母親の長期の就労が困難、周辺保育園も空きは少なく、子どもとの時間を犠牲にして働くことよりも、幼児期の育児をして専業主婦、幼稚園を選択する傾向が強くまた経済的余裕もある。)東山地区で徒歩通園可能な幼稚園は、ひがしやまからすみ幼稚園の2園である。(私立は、バス・自転車の距離)区内幼稚園の充足率80%といっても、ひがしやま幼稚園は常にほぼ100%であり、かすみ幼稚園が保育園に転用された場合、幼稚園希望者が定員を超える。からすみ幼稚園の定員を減らし、認定こども園化するのが現実的と考える。或いはひがしやま幼稚園の定員を倍増する措置が必要である。</p>	<p>区立幼稚園の見直しについては、10年来、議会とも論議しながら教育委員会として検討してきた課題です。平成21年度に改定した目黒区基本計画には、「幼稚園の統廃合等による適正配置や認定こども園への移行を進める」と施策を掲げており、今回の見直しはこの基本計画に沿って進めているものです。</p> <p>ひがしやま幼稚園は常に充足率が高いことも認識していますが、保育所待機児の解消は区の喫緊の課題となっています。区立幼稚園は、平成11年度377人の入園児がいましたが平成22年度では282人の入園児となり100人弱減少しています。こうした状況変化への対応として「区立幼稚園見直しの基本的方向について」をお示しました。</p> <p>からすみ幼稚園の認定こども園への移行は、人員体制等の充実が伴いますし、ひがしやま幼稚園の定員増については施設規模が足りないことから、どちらも実現することは難しい状況です。</p>
12	<p>区立幼稚園の入園を希望しているので区立幼稚園の抽選にもれた場合、私立幼稚園に入園することになるので私立幼稚園への補助金を増やして欲しいと思います。</p>	<p>区では、これまで区立幼稚園と私立幼稚園との保育料の格差解消に向け補助の増額に努めてきました。今後も引き続き私立幼稚園在園児保護者への補助の増額について努力し、幼稚園教育を受けやすい環境整備に取り組んでいきます。</p>
13	<p>保育園の必要性は良くわかりますが、就職したくともできない人たち、仕事をせず子育てを一生懸命している人たちはどうすればよいのでしょうか。幼稚園も残して欲しい。</p>	<p>区立幼稚園見直しは、区立幼稚園在園児の減少と保育所待機児の増加という状況変化や、働きながら幼稚園教育を受けさせたいという要望の高まりに対応するため行うものです。</p>
14	<p>国の方向としても法制化はこれからということで、子どもたちがどのような状況におかれるのか今日の説明だけでは理解できない。再度説明会を開いてください。</p>	<p>現在、国が検討を進めているこども園(仮称)の詳細な内容が今後示されて、区としての対応案がまとまりましたら、何らかの形で説明は行う必要があると考えています。</p>
15	<p>陳情を提出し、現在審議中にも関わらずなぜ行政は目的に向かって行けるのか。議会の議決が最終決定だといっていたのに議会の議決を待たずに平成24年度の募集を行わないということを決めて告知するのはおかしい。</p>	<p>区立幼稚園の廃園は、議会で条例改正案が可決されて最終的に決定となるものです。教育委員会として、区立幼稚園見直しの基本的方向に沿って準備を進めているもので、在園児がいらない状況をつくりながら廃園していくという考え方ですので、廃園の前段としてまずは園児募集を行わないことを決定し、告知するというものです。</p>

番号	意見	意見等に対する考え方及び対応
16	一方的に区の決定を押し付けるだけで当事者の意見を汲もうとする姿勢が見られない。決定に至るプロセスが不可解であり、子どもやその親のことを考えて立てられた計画ではない。少なくとも2園の閉園時期を平成25年3月にするのは早すぎる。平成27年3月以降が妥当ではないか。	廃園の時期を平成25年3月末を目途としたのは、速やかに保育所待機児解消に対応したいこと、平成25年4月からみどりがおか幼稚園が認定こども園に移行するが、そのためには運営体制の充実を図る必要があるためです。
17	子どもたちのための政策、ニーズにあった対策なら、からすもりもふどうも認定こども園にすべきである。金銭的な面から区立を選択している家庭も多く、また保育園に入れて働けるほど最近の経済状況はよくない。幼児期に子どもと関わるために幼稚園を選んでいる人もいる。 北部地区は子どもの数が多く、国の方針などとうたって相反する政策である幼稚園をなくすのはやめて欲しい。	認定こども園に移行するには、長時間保育や子育て支援事業などを実施するための運営体制の充実が必要であり、区立幼稚園5園全部を認定こども園に移行することは、財政的にも難しい状況です。それよりも現在の保育所待機児の増加に対応するため、保育園にしていこうという考え方です。
18	現時点で区立幼稚園に通う子ども・家族へのケアをお願いします。また、これから入園を予定している子どもには他の幼稚園への優先的な入園をお願いします。	区立幼稚園の日々の運営の中で、十分配慮していきます。他の幼稚園への優先的な入園というのは公平性の観点から困難です。
19	認定こども園に対し何が何でも反対というわけではないが、まだまだ納得できる状況ではない。区民の意見を聞いて決めようことに欠けている。行政に足りないのは意見を広く聞いて決めようという民主的考えです。	認定こども園移行にあたっては、年度内に具体的な運営の枠組みを案としてまとめていく予定ですので、案がまとまりましたら在園児保護者等に説明し、意見を伺っていきたくて考えています。
20	「こども園」化するのはいいと思うが、廃園時期については、1、2年延長して欲しい。	廃園の時期を平成25年3月末を目途としたのは、速やかに保育所待機児解消に対応したいこと、平成25年4月からみどりがおか幼稚園が認定こども園に移行するが、そのためには運営体制の充実を図る必要があるためです。
21	保育園需要にこたえるために幼稚園需要を無視していいはずはない。廃園によって幼稚園難民が発生する懸念を持っている。行政自らが他に誇れる質の高い目黒区立幼稚園の教育内容を手離そうとしていることに驚いています。	区立幼稚園見直しは、区立幼稚園在園児の減少と保育所待機児の増加という状況変化や、働きながら幼稚園教育を受けさせたいという要望の高まりに対応するため行うものです。3園は認定こども園に移行していきますので、区立幼稚園が培ってきた幼稚園教育は引き継いでいきます。
22	認定こども園に移行するにしても、募集時期について私立幼稚園募集時期より早くするなど検討をお願いしたい。	認定こども園の園児募集の時期については、基本的にはこれまでと同じ時期を想定していますが、長時間保育を行うことから、保育園の園児募集時期との調整は考えていく必要があると思っています。
23	子どもを区立幼稚園に通わせたのは、「近い」「安い」「近所の友達が増える」からです。これから子どもを公立に通わせたいと思っている親の声も聞いてください。建物が完成するまで私立に通わせなければならないが、補助が出ないと困ります。	認定こども園への移行にあたり、建物の改修・改築どちらの場合でも工事期間中は一旦休園するということはありません。そのまま利用できるように進めていきます。 また、区では、幼稚園教育を受けやすい環境をつくるため、私立幼稚園在園児保護者の経済的負担軽減に努力しています。

番号	意見	意見等に対する考え方及び対応
24	<p>区立幼稚園を見直さなければならぬ理由や現状はよく理解できました。しかし、平成22年度の待機児51人のために幼稚園を廃園し保育園にすることがあまりピンときません。現在の保育園の定員の見直しや認可保育園を増やすなどして対応できないでしょうか。</p> <p>また、区立幼稚園の需要が減っているとのことですが、3年保育の実施などで需要もかなり変わるのではないのでしょうか。区立幼稚園の教育の質は高く、もっと区立幼稚園の必要性について議論すべきではないのでしょうか。</p>	<p>区ではこれまでに、保育所待機児解消に向けて定員の弾力化による拡充や認証保育所・認可保育所の整備を行ってきましたが、それでもまだ待機児は発生しており、今後も認可保育所の整備を進めていく必要があると考えています。</p> <p>区立幼稚園の3年保育は、私立幼稚園の定員を補完するために区立幼稚園を設置した経緯などから実施していませんが、認定こども園移行にあたり、3歳児以下の保育について、実施も含め検討していきます。</p>
25	<p>からすみ幼稚園をなくさないでください。他の区立や私立幼稚園にはこれだと思えるところがありません。こども園にどうしてもするのならどんな家庭の子どもでも入れるようにしてください。</p>	<p>認定こども園は、保護者の就労の有無にかかわらず利用できる施設です。</p>
26	<p>ふどう幼稚園もからすみ幼稚園も認定こども園にしてください。廃園時期を遅らせてください。区立保育園にするならば、給食の改善、保育士の教育を徹底して欲しい。</p>	<p>認定こども園に移行するには、長時間保育や子育て支援事業などを実施するための運営体制の充実が必要であり、区立幼稚園5園全部を認定こども園に移行することは、財政的にも難しい状況です。区立幼稚園の在園児が減少する一方で、保育所待機児が増加しており、そうした状況変化に対応するため、保育園にしていこうという考え方です。</p> <p>また、廃園の時期を平成25年3月末を目途としたのは、速やかに保育所待機児解消に対応したいこと、平成25年4月からみどりがおか幼稚園が認定こども園に移行するが、そのためには運営体制の充実を図る必要があるためです。</p> <p>保育園では、これまでも職員の資質向上や給食の充実も含め、保育の質の向上に努めています。</p>
27	<p>平成23年度子どもをからすみ幼稚園に入園させたいと考えています。平成25年3月に廃園なので卒園できることは嬉しいですが、年長のときに年少のクラスがないのは残念です。</p>	<p>年少クラスがないことに対しては、保育の中で異年齢交流などの工夫ができないか今後検討していきたいと考えています。</p>
28	<p>みどりがおか幼稚園で現在行われている預かり保育について実際やってみて良かった点や問題点を具体的に説明していただくと良かったのではないのでしょうか。ふどうやからすみ幼稚園を認定こども園にするのにそれほど困難だとは思えません。</p>	<p>預かり保育の実施状況については、今後の認定こども園移行にあたっての説明の中で触れていきたいと思います。</p> <p>認定こども園に移行するには、長時間保育や子育て支援事業などを実施するための運営体制の充実が必要であり、区立幼稚園5園全部を認定こども園に移行することは、財政的にも難しい状況です。</p>
29	<p>こども園への移行も将来的には、良いと思います。しかし、自分の子どもの未就学の期間に幼保のシステムが変わり「区には頼れない」と正直感じました。今、子どもの育つ環境を抜け目なく整え充実させることが区、都、国の繁栄に繋がると思います。皆が住みたいと思う目黒区を目指してください。</p>	<p>今後も幼児教育の振興と子育て支援施策の充実に取り組んでいきます。</p>

番号	意見	意見等に対する考え方及び対応
30	区立幼稚園が3園になってしまうと、経済的に区立幼稚園入園を希望する家庭の子どもが入園できるのか疑問です。しかも認定こども園になったら現在対象でない家庭からも入園希望者が多く流れ、私立幼稚園にも入れない層の子どもが出てしまうのではないのでしょうか。認定こども園への入園の条件として所得制限などあるのでしょうか。共働きでない家庭の子どもが保育園に入れるようになりませんか。	私立幼稚園の在園児保護者への補助の充実に努めており、今後も努力していきます。認定こども園の入園の条件として所得制限を設けることは考えていません。保育園では、入園するための要件は必要となります。現在、国が検討を進めているこども園(仮称)に将来的に移行すれば、保育が必要との要件は撤廃され、保護者の就労の有無にかかわらず利用できるようになることが示されています。
31	認定こども園について、口頭だけで良くわかりませんでした。わかりやすい資料を用意すべきだと思います。	今後、分かりやすい説明について工夫していきます。
32	私立幼稚園と区立幼稚園を「幼稚園」というくりで1つにするのは間違いではないのか。私立幼稚園は、入園の時期や定員超過で有無をいわせめ足切りがあり、区立幼稚園を選択する親は相当な覚悟が必要です。税込、世の中の状況を考えての行動としては、区立幼稚園を存続させることを優先させるべきではありませんか。新たなシステムに移行させるなら、保育園に変えるのではなく全てを区立の認定こども園にし、民間に対し運営モデルを示すべきだと思います。子どもを生み育てるのは小学校にいたまで生活設計を行うもので、今の子どもたちの生活のために最短の廃園時期は5年スパンで捉えて欲しい。区民がいつでも意見し細かく返答をいただける場を作ってください。	認定こども園に移行するには、長時間保育や子育て支援事業などを実施するための運営体制の充実が必要であり、区立幼稚園5園全部を認定こども園に移行することは、財政的にも難しい状況です。それよりも現在の保育所待機児の増加に対応するため、保育園にしていこうという考え方です。また、廃園の時期を平成25年3月末を目途としたのは、速やかに保育所待機児解消に対応したいこと、平成25年4月からみどりがおか幼稚園が認定こども園に移行するが、そのためには運営体制の充実を図る必要があるためです。区民意見は直接お寄せいただければいつでもお答えしております。
33	幼児教育を私立幼稚園に託すのであれば、保育園も私立保育園に託す方向で私立保育園への補助や認定を推進すべきであると思う。その上で区民の幼稚園需要を考慮して区立幼稚園を全廃せずいくつかは存続させ区立幼稚園の需要への担保をすべきである。また、今回の進め方はあまりに一方的であり、区民からのパブリックコメントを行うなど十二分に検討する期間を設けるべきではないか。区からの告知が不十分であると感じている。	区立幼稚園を全廃するのではなく、3園は幼稚園型認定こども園に移行していきます。区立幼稚園の見直しは10年来、議会とも論議しながら教育委員会として検討してきた課題であり、区立幼稚園在園児の減少や保育所待機児の増加など区立幼稚園を取り巻く状況変化に対応し、区全体の幼児教育の振興と子育て支援施策の充実を図っていくものです。説明会を各園で開催するなど、丁寧な告知に努めています。
34	定員割れの話がありましたが、私立幼稚園同様に「3年保育」の選択はなかったのでしょうか。何型の認定こども園に移るのでしょうか。今回はじめて参加したものにとっては非常にわかりにくい説明会と感じました。資料も工夫しプロジェクターなどを使って的確に説明して欲しい。	区立幼稚園の3年保育は、私立幼稚園の定員を補完するために区立幼稚園を設置した経緯などから実施していません。認定こども園移行にあたっては、幼稚園型を基本に考えておりますが、3歳児以下の保育については実施も含め検討していきます。今後ともわかりやすい説明に努めます。
35	国の動きではなく、その地域を細かく見てください。からすみ幼稚園の近くには保育園が2園できたが定員割れを起こしている。そこで幼稚園を保育園にして何の意味があるのか。からすみ幼稚園は、小学校との連携を図り子どもにとってとてもいい環境です。からすみは幼稚園として残すべきです。	国の動きはそれとして、区立幼稚園の見直しは10年来、議会とも論議しながら教育委員会として検討してきた課題であり、区立幼稚園在園児の減少や保育所待機児の増加など区立幼稚園を取り巻く状況変化に対応し、区全体の幼児教育の振興と子育て支援施策の充実を図っていくものです。保育園の待機児は低年齢児が中心であり、北部地域にも保育園はまだ必要であると考えています。

番号	意見	意見等に対する考え方及び対応
36	基本方針は賛成です。現在保育園をさがしていますがどこも定員オーバーで入園できません。より多くの乳幼児を受け入れてくれる施設の設置を希望します。	区では、保育所待機児解消に向けて引き続き努力していきます。
37	今回の認定こども園計画は実行しなければならないことだと思います。区立保育園に入れずに認証保育園に子どもを通わせていますが、保育園がなくて困っている母親がたくさんいます。もっと早く取り組んでもらいたいくらいです。質疑応答で感情的に反対している方がいて驚きました。幼稚園に通わせている方は保育に対し困っている人が多い現状の認識が足りてないと思います。	今後も区全体の幼児教育の振興と子育て支援施策の充実をはかるため、区立幼稚園見直しの基本的方向に沿って進めていきます。また、保育所待機児解消に向けても努力していきます。
38	区立幼稚園の見直しは、現状に対応するという意味でよいことだと思うがもっと対応時期を早めてもらいたい。	必要な手順を踏みながら、進めていきます。
39	障害児を持つ親ですが、私立幼稚園の多くは、障害児の受け入れ枠がありません。受け皿のなさに不安を感じています。区立幼稚園の存在は母親の就労に関係なく受け入れてもらえるのではと希望がもてる気がしていましたが、認定こども園になるとまた受け皿がなくなるのではと危惧しています。本当に子どもにとって平等に通園できる場の確立をお願いします。	認定こども園は、保護者の就労の有無にかかわらず利用できるものです。また、区立幼稚園が移行する認定こども園はこれまでどおり、お子さんの障害の有無にかかわらず、平等に通園できる施設です。
40	これからは、認定こども園にしなければならないのだろうか。就労の有無に関わらず預けられると示されていても人数が多くなりすぎて保育の利用も難しくなるのではないのでしょうか。ひがしやま幼稚園は、幼稚園のままで残して欲しい。	働きながら幼稚園教育を受けさせたいというニーズに応えるため、保護者の就労の有無にかかわらず利用できる認定こども園に移行するという考え方で
41	時代の流れに合わせて幼稚園のあり方が見直しされるのは理解できます。納得できないのは平成25年3月に廃園するという時期です。区民、未就園児の保護者に対する説明が遅すぎます。1年前の説明なら全て解決できます。最低でも閉園を平成26年度末にすべきです。	廃園の時期を平成25年3月末を目途としたのは、速やかに保育所待機児解消に対応したいこと、平成25年4月からみどりがおか幼稚園が認定こども園に移行するが、そのためには運営体制の充実を図る必要があるためです。
42	ふどう幼稚園も認定こども園にしてください。	認定こども園に移行するには、長時間保育や子育て支援事業などを実施するための運営体制の充実が必要であり、区立幼稚園5園全部を認定こども園に移行することは、財政的にも難しい状況です。それよりも現在の保育所待機児の増加に対応するため、保育園にしていこうという考え方です。
43	来年度入園する子どもたちの兄弟に関し、上の子が公立幼稚園で下の子が私立幼稚園といった家庭が少なからずいるはずですが。送り迎えや行事など考えると母親への負担がとて大きいです。そのため、2歳違いの子どもまで入園できるよう廃園の時期について検討してください。3年間あれば廃園の周知徹底がなされると思います。	そうした状況が予想されることについては、十分認識していますが、どこかで区切りをつけることも必要と考えます。廃園の時期を平成25年3月末を目途としたのは、速やかに保育所待機児解消に対応したいこと、平成25年4月からみどりがおか幼稚園が認定こども園に移行するが、そのためには運営体制の充実を図る必要があるためです。

番号	意見	意見等に対する考え方及び対応
44	丁寧の説明し、話し合いをもつというのが民主主義のあたりまえのやり方だと思いますがいかがでしょうか。教育長は「すべてをこども園にしてはどうか」という意見もあるのだがビルド&ビルドは無理です」と述べていましたが、お金があればすべてをこども園にしたいということでしょうか。	説明会は「区立幼稚園見直しの基本的方向について」を説明し、検討状況を伝えるために開催したもので、協議の場ではないことをご理解ください。また、お金があればというような仮定のことではなく、現在直面している現実、区立幼稚園を取り巻く状況変化に対応し、今後どのように施策を展開していくのかということです。
45	説明に時間をさかれ来場者の質疑応答の時間が不十分でした。改めてこの問題に関する質問・疑問点を伝える場を設けてください。	質問や意見・要望については、いつでも受け付けており、お答えもしていますので、改めて場を設ける予定はありません。
46	区立幼稚園は、幼保小中の連携のモデル園として残したほうがいいと思います。3園では区全体をカバーしきれないので5園必要です。今までの幼小中連携、幼保連携を基に、さらに就学前教育の充実に努めて欲しいと思います。区立幼稚園は、保育園にも私立幼稚園にもいけない子どもを預かっている。障害があっても収入が少なくてもお母さんが働けなくても通える場が必要です。	幼保小連携については、保育園や私立幼稚園も含め、区全体で進めていくべき課題であると認識していますので、保育園に転用した後も小学校の敷地内という立地条件を活用し、就学前教育と小学校との連携を進めていきたいと考えています。 また、認定こども園は、保護者の就労の有無にかかわらず利用できるものであり、区立幼稚園が移行する認定こども園はこれまでどおり、お子さんの障害の有無にかかわらず、平等に通園できる施設です。